



仲間とともに
その40

飯館村
社会福祉協議会

7月14日の朝、福島市飯野町の事務所前で撮影。相談員さんはこの後、方部別の訪問活動に出発しました

「避難先の訪問時間を極力確保したい」と、福島市飯野町に拠点を置いている村社会福祉協議会。拠点を村内に戻すのは、避難指示解除のタイミングに合わせる予定で、以降は村内の福祉活動と並行して、避難先に残る村民の見守りも継続しようと考えています。「帰村したいと願う高齢者は多い。ご家族も安心できる環境作りに関係機関と連携したい」と小林浩二事務局長。生活相談員で副主任の佐藤照子さん(飯樋町)も「どの人も村が大好きなんですよ」と帰村に向き合う村民の思いに寄り添います。

活動データ

- 借り上げ住宅の訪問や方部別お茶会の開催など、村民の避難生活に寄り添う事業を展開しています。
- 民生児童委員協議会や老人クラブ連合会、日赤奉仕団など各団体の福祉活動にも協力しています。

飯館中学校のふるさと学習
ふるさとの今 生徒が取材

7/7



山田豊さんの牛舎にて



飯館中学校の本校舎を探検



高橋日出夫さんの花卉ハウスで

飯館中学校では、全校生徒が学年混合の3班に分かれ、二つのテーマで「ふるさと学習」に取り組んでいます。そのテーマとは「村の復興」。被災前後の村の歩みを知り、立ち上がる村民の思いにも触れながら、学びを深めています。活動班は、「討論(ディベート)」「ドラマ制作」「ものづくり」の3つ。この日は学校を飛び出して、班ごとに取材活動を行いました。

「ドラマ制作」班は、脚本作りの参考に、福島市飯野町で黒毛和牛の繁殖に取り組む山田豊さん(関根・松塚)、花卉栽培に取り組む高橋日出夫さん(関根・松塚)を訪問し、これまでの経緯や現在の思いを聞き取りました。他の2班は村内で、新しい交流センターやメガソーラー施設、中学校の本校舎などを訪問。中学校では、時が止まったような校舎内をめぐり、被災の現実に向き合いました。「ここに通いたかったな」という女子生徒のつぶやきも聞きました。ふるさと学習は夏休み後も継続し、12月に成果を発表する予定です。

表紙 本庁業務を全面再開した村役場
村役場は7月1日から本庁舎での業務を全面再開しています。住民課窓口でのひとこま。



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。